



分科会では、これからの高齢者の在り方と若い世代に伝えていきたいことについて討議が進められた(1/11)

特集2 空と海が育む交流の輪 第1回いわてシルバー洋上セミナー

1月10日水曜日、日本エアシステム634便は県内各地から集まった247人の団員を乗せ、花巻空港から大阪・伊丹空港へと飛び立った。4日間の第1回いわてシルバー洋上セミナーの始まりだ。

シルバー洋上セミナーは、共同生活を通し地域活動の担い手を養成するた

めに行われているもの。平成元年度から始まった前身の「岩手シルバー洋上セミナー事業」から数えて今年で7回目を迎える。今年、装いも新たにスタートしたこのセミナーは活動内容も大きく見直し、より一層充実したものとなっている。今回の研修で変わった点は、3点挙げられる。往路に飛行機を

利用したことで、船だけでなく飛行機の旅を楽しめること、日程が1日増えたことでゆとりある時間設定が可能になったこと、また、関西・京都県人会や大阪府老人大学の学生との交流が図られたこと、である。

飛行機と船が育んだ交流。この4日間のドラマを写真で振り返ってみよう。



◀247人の団員を乗せた日本エアシステム634便



▶大阪港から宮古藤原ふ頭までの1,437海里を航行した「ふじ丸」。全長167.4m、総トン数23,340トンの威容を誇る



▲関西県人会、京都県人会の皆さんが伊丹空港で出迎え(1/10)。その後行われた交歓交流会では、ふるさと岩手の話に花が咲いた



▲神津定剛船長は、「印象に残る世界の港」と題し講演(1/12)

▼自由時には、ニュースポーツ(写真)、コーラス、ダンスなどが行われ、団員は思い思いに楽しんだ



▲ふじ丸には、車椅子で移動しやすいようにベッドとベッドの間が広く、段差がないように配慮されている部屋が二つある。車椅子で参加した松尾村の松尾行夫さん(写真左)は「車椅子でも使いやすいシャワー室や洗面台があり、部屋がとても使いやすい。快適な船の旅を楽しんでいます」と語ってくれた



▶各分科会で話し合われた内容が報告された全体会。団員からも積極的な発言が相次いだ(1/12)

